

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科
科目名称 [英語名称]	環境問題演習 [Seminar on Environmental Issues]				実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○
科目コード	750063	授業形態	演習	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	遠藤 晃				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(1) D P3(5)	
授業概要	<p>環境問題は広く深く複雑で、私たちの日常生活も含め、産業、経済、社会、国際関係、法制度・政策などと直接・間接に相互関連しあっている。このような複雑な課題を取り扱い解決へと向かうためには、環境問題に関する個別の知識ではなく、「多面的な理解」や「知識や経験を関連付けて思考する能力」が必要となる。</p> <p>関連性の学問とも言われる「生態学(エコロジー)」は、環境問題を考える基盤となる「知識」を与えるだけでなく、個別の知識を「関連付ける思考法(エコロジー的思考)」を習得する機会を我々に与え、教員志望の学生にとっては、新・学習指導要領が求める「汎用的な知識・技能」「教科横断的な学び」の指導力向上にも寄与することが考えられる。</p> <p>本講義は、「環境教育論」の実践編であり、主な地球環境問題の主要テーマの中から、生物多様性と気候変動、ゴミ問題や水の問題などについて、野外調査(フィールドワーク)によって自分自身で調査・研究することで、環境問題について深く理解する。その上で、自然共生社会、循環型社会、低炭素社会の実現に向けて、様々な取り組んでいる行政による環境施策について理解し、環境問題に対する具体的な行動について考える。</p>						
関連する科目	環境問題入門、環境教育論、環境教育演習						
授業の進め方と方法	<p>本講義では、カモシカを保護する立場(文化財行政、研究者)、シカの駆除に取り組む立場(鳥獣行政、狩猟者)、森林を守る立場(林野行政、林業者)の方々をゲストティーチャーとし、それぞれの考えや取り組みをレクチャーしていただくことで多様な視点(それぞれの立場)があることを知り、そのうえで、目的(今回はカモシカの保全)のために、「教育学の視点」から、よりよい解決方法を考案し、行動につなげていく。このプロセスを通して、教員志望の学生の汎用性のある資質・能力を向上させ、教育者としてのスキルアップをはかる。</p>						
授業計画	<p>1日目:ニホンカモシカとニホンジカ ①:オリエンテーション:遠藤晃/講義の目的、到達目標、内容、課題と評価 ②:ニホンカモシカの生息状況:専門家・綾町教委文化財担当/ 「生態、分布南限、推定個体数激減、分布移動、シカとの競合、錯誤捕獲」 ③:綾町について:専門家、綾町BR推進室/綾町の紹介(自然、歴史、文化) ④:ニホンカモシカとニホンジカの生態:遠藤晃/分布、社会構造、採食生態、個体群動態 ⑤:ディスカッションとまとめ</p> <p>2日目:生物多様性/森林とニホンジカ ①:綾BRIについて:綾町BR推進室/綾町の取り組み、綾プロとBR、エコパークセンターの取り組み ②:生物多様性とは:遠藤晃・綾町BR推進室/生物多様性、関連法律、国家戦略と地域戦略、教育と生物多様性 ③:綾町の森林:綾町農林振興課、森林組合/自然林、林業の現在・過去・未来、綾プロ、食害と防除、森林と法律 ④:鳥獣による農林業被害と対策:綾町農林振興課・猟友会/野生動物と法律、特定鳥獣管理計画、狩猟の現状と課題、対策 ⑤:ディスカッションとまとめ</p> <p>3日目:森林とニホンジカ、ニホンカモシカの共生に向けて ①②:ニホンジカが生物多様性に与える影響(調査)防鹿フェンス内外の植物:綾町BR推進室 キーワード「生物間相互作用、多様性、鳥獣害とその対策」/綾プロエリア国有林 ③④:総合的なまとめと議論:プレゼン資料作成/人間と森林、ニホンジカ、カモシカの持続的な共生 ⑤:プレゼンテーション:共生のためのアクションプラン(教育的な視点より)</p>						
授業の到達目標	<p>地球環境問題について、単に環境問題に関する個別の知識を習得するのではなく、「多面的な理解」や「知識や経験を関連付けて思考する能力」をもとに、複雑な課題を取り扱い解決へと向かうことができるようになる。そのために、受講者自身がフィールドワークや活動等を通して、地域の環境問題に関する情報を多面的に収集し、関連付けて整理した上で、具体的な行動について考えられるようになることを目標とする。</p>						
授業時間外の学修	<p>毎回の講義について、講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す(1時間程度/回)。また、事前準備として、毎回のテーマに関連する予習を課す(1時間程度/回)。不明な点は、担当教員に随時相談すること。</p>						
課題に対するフィードバック	課題・レポートについては、随時解説する。	評価方法		<p>演習への取り組みを、レポート(60%)、プレゼンテーション(10%)、意見発表(10%)、プログラムの作成などグループ活動への主体的・協働的・創造的参画(20%)の観点から、総合的に評価する(100%)。評価基準については、講義内容の理解を最低限のレベルとし、理解に基づく活用、さらに応用といった、知識を基にして様々なことと関連づけて思考・判断したことが表現できているかどうかを評価する。</p>			
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料を配布する。						
参考書							
備考	<p>・講義とフィールドワーク(野外調査)で構成され、夏季集中講義で3日間実施する。 ・講義は綾町エコパークセンター、フィールドワークは綾町の照葉樹林内で実施する。</p>						